

テクノスタット工業が商品拡充 環境配慮や抗菌も

2020/06/03 07:00 日本経済新聞電子版 1177文字

帯電防止のプラスチックフィルムの袋などを製造するテクノスタット工業（栃木県那須塩原市）が商品の幅を広げている。電子部品などが静電気を帯びるのを防止する袋が主力で、大手電機メーカーや自動車部品メーカー向けに販売して成長してきたが、今春には植物由来のプラスチックを配合して環境に配慮した商品も投入。抗菌フィルムも試作した。

「新たに抗菌のフィルムができました」。同社を訪れると、中沢文伸社長が熱のこもった口調でこう語り、試作品を広げて見せてくれた。帯電防止、防さびなどの機能を持つ様々なフィルムを製造してきたノウハウを生かしてつくったのが、この抗菌フィルムだ。

新型コロナウイルスの感染拡大の防止に全国の官民が取り組むなか、医療従事者用のガウンなどに使えるという。また飲食店や小売店の店内でも利用できるとみる。抗菌機能のあるプラスチックを数%混ぜており、社会のニーズに対応する思いから生まれた。

一方、植物由来のプラスチックを25%配合した環境にやさしい帯電防止フィルムは3月に日本バイオプラスチック協会の認証を受けた。袋などに協会の認証マークを印刷できる。企業は環境に配慮した経営を求められるようになっており、環境を意識した事業者の利用を見込んでいる。

テクノスタット工業は社長の父である中沢敏志会長が開発志向の企業を目指して2000年に創業。当初は3人でスタートした。中沢社長が入社したのはそれから10カ月後だ。主力の「持続型帯電防止フィルム」は樹脂中の金属イオンが静電気を逃がす仕組み。なかでも売れ筋商品は原料の配合により「フィルムに腰があり袋を開きやすい」（中沢社長）という。

また、粉体を包装する「粉体用静電気放電粉塵（ふんじん）爆破防止袋」は特許を取得した商品で顔料の粉体などに使え、医薬中間体原料向けの販路を開拓する。

このほか、帯電防止とさび防止の機能を併せ持つフィルムや生分解性袋、消臭袋など製造する商品は多岐にわたる。

工場では原料のポリエチレンを溶かしてフィルムにする装置が稼働していた。筒状になったフィルムが次々に巻き上げられていく。1カ月の生産能力は約50トンだ。

03年にさいたま市に「東京営業所」を開設して販売を強化。「2、3年前まで売上高は右肩上がりだった」（中沢社長）が、米中の貿易摩擦などで19年から生産が減少。同年8月期の売上高は6億4000万円だ。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響については「この先どのように出てくるか」と注視している。20年8月期の売上高は減少する見込みだが、将来は海外での販売などで「10億円に増やしたい」としている。

社名にある「テクノスタット」は造語でテクノロジーとStatic（静電気の、静止の）に由来している。技術開発を重視する会社として道を切り開く構えだ。

（宇都宮支局長 伊藤健史）



包装用フィルムの1カ月の生産能力は約50トンだ（栃木県那須塩原市）



試作した抗菌フィルム

許諾番号30076239日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.